

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の分析及び活用について

学校名	伊勢原市立成瀬中学校
-----	------------

1 調査結果の分析及び考察

	特長	課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・助動詞の働きを理解している。 ・聞き手の興味・関心などを考慮して、表現などを工夫することができている。 ・文脈に即して正しい漢字を書くことができている。 ・論理の展開に注意しながら話を聞くことができている。 ・漢字の行書の読みやすい書き方やそれに調和した仮名の書き方について理解している。 ・文学的文章を読み、場面と場面や描写を結び付けて内容を解釈している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心情の変化などについて描写をもとに捉えること。 ・心情を表現する語句を理解すること。 ・根拠を明確にして自分の考えを書くこと。 ・自分の考えがわかりやすく相手に伝わるように工夫すること。 ・行書の特徴について理解すること。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・連立方程式など基礎・基本となる計算については概ね理解している。 ・証明の根拠として用いられる三角形の合同条件を理解している。 ・与えられた表やグラフから情報を適切に読み取り、問題解決の方法を数学的に読み取ることができている。 ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然数を素数の積で表すこと。 ・目的に応じて、式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄や成り立つことを説明すること。 ・筋道を立てて考え、事柄が成り立つことを説明すること。 ・与えられたデータから資料の傾向を読み取ること。 ・箱ひげ図から分布の特徴を読み取ること。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈することができている。 ・分子のモデル図を基に、化学変化を化学反応式で表すことができる。また、粒子の保存性に着目し、化学変化に関わる物質の質量が変化しないことを分析して解釈することができている。 ・条件制御をした実験の計画を立てることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物体に働く重力とつり合う力を、矢印を使って表し、説明すること。 ・考察を行うためのグラフを作成すること。 ・気圧を空気の重さやモデルと関連付けて考えること。 ・空の様子や画像や観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析すること。
質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣が定着している。 ・人が困っているときは進んで助けようとする生徒が多い。 ・友人との協力に喜びを見だし、授業や学校生活にとりこんでいる。 ・授業の生徒間で話し合う活動で、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めながら、自分の考えをしっかりと伝えることができる。 ・人の役に立つ人間になりたいと思っている生徒がとても多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら計画を立てて学習を進めようとしているが、平日や、学校が休みの日に学習時間を確保すること。 ・今住んでいる地域の行事等に参加したり、地域の大人等とかかわったりする機会が少ないこと。

2① 授業の充実に向けた重点的な取組

<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情を正確に読み取れるように、人物の置かれた状況や行動・台詞に注目させるように指導していく。 ・根拠を明確にした文章を書くために、事実と考えの違いを意識させるような活動を取り入れていく。 ・自分の考えを聞き手に分かりやすく伝えるように、聞き手の立場に立ち、どのような工夫が効果的なのかを考える場面を取り入れていく。 <p>【数学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋道を立てて説明するために結論に向けて必要なことを考え、与えられた条件を整理したり、適切な情報を選択したりする場面を増やしていく。 ・日常生活と関連付けて、数学的な問題をより身近なものに考えられる活動やきっかけを作り、判断の理由を数学的に説明する場面を取り入れていく。 ・箱ひげ図からの分布を読み取るために、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取る活動を取り入れていく。 <p>【理科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考察の妥当性を高めるために、実験結果の処理について振り返ったり、実験の計画や方法を検討したりする場面を意図的に取り入れていく。 ・原子・分子のモデルや力のつり合いの様子を可視化したり、天気の変化や地層のつながりを分析したりするために、ICT機器やタブレット端末を引き続き活用していく。 ・日常生活や実社会の場面で、理科で学習した知識や技能を活用し、現象を考えたり、説明したりする場面をより一層、設定していく。

2② 家庭(地域)への発信内容(協力依頼事項)

※家庭で取り組んでほしい内容や地域の方に知っておいてほしい内容

<ul style="list-style-type: none"> ・日頃より学校の活動にご理解、ご協力いただき、厚く御礼申し上げます。 ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。」の割合が100%になるよう、お互いに協力していきましょう。 ・基本的な生活習慣はほぼ定着しています。携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っているという生徒の割合は多いので、あらためて自宅での過ごし方や学習時間の確保について話し合ってみていただければ幸いです。
--